

復興に向け基本提言

今泉・明日へのまちづくり協

陸前高田市



将来的な視点に立った提言内容に理解を求める村上会長(右から2人目)＝陸前高田

先月27日に発足した「陸前高田・今泉地区 同地区のまちづくり」は4日、陸前高田市へ明日へのまちづくり協 関する「基本構想」を提出した。今泉の歴史(村上孝嘉会長)

を引継いだ郷土の風景を作るとともに「住む・作る・商う・学ぶ・泊まる」が一体となったまちを目指すとしている。

提出は市役所で行われ、村上会長のほか吉田裕、木村昌之両代表理事らが訪問。市側では戸羽太市長、菊池満夫企画部長、担当課長らが対応した。

今泉地区の住民有志は5月以降、住宅再建や街並み再生を目指して勉強会を開き、意見交換を重ねた。この中で住民自らが地域の声を集約し、まちづくりへの提案活動などを行おうと組織化に至っ

た。

復興まちづくりを進める上での観点として、今回市に要望したのは▽自然に学びながら働いて社会を良くするまち▽子どもからお年寄り、障がい者等、社会的弱者にやさしいまち▽災害に強い、再生可能エネルギーを活かした循環型のまち▽多様な社会の課題を事業を通じて解決できるまち▽今泉宿として歴史文化を活かした地域の魅力を高めるまちの5項目。

100年、200年続くまちづくりへのビジョンとして「新しい今泉宿を作る」「新しいまちを通して海・川・山をつなぎ直す」も提言。この中では一般的な商業集積やニュータウンからの差別化に加え、周辺住民や観光客を集めるまちづくりを進めるとしている。

協議会側では、行政と住民がともに協力しあいながらまちづくりを進めたいと思ふ」と

いまちを通して海・川・山をつなぎ直す」も提言。この中では一般的な商業集積やニュータウンからの差別化に加え、周辺住民や観光客を集めるまちづくりを進めるとしている。

を進めるべきとし、今後の活動に向けた市側との連携を強調。村上会長は若い世代による組織活性化に期待を寄せたほか「住民には将来どういうまちになるのか、いつ戻れるかの心配がある。目に見える形で少しでも進められればいいと思ふ」と

語った。

戸羽市長は「基本的な考え方は素晴らしいと思う。今泉の歴史を大切に、日本全体で悩んでいる課題を解決できるようなまちづくりを、行政も住民の皆さんと協力しあいながらしっかりとやっていきたい」と述べた。

同会では今泉地区住民や趣旨賛同者らによる「総会」を月1回ペースで開催しながら、基本計画などを練り上げる方針。次回の総会は25日(木)午後6時30分から、市役所で予定している。